

## 令和4（2022）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

| 種名    | モロトゲアカエビ  | 対象水域  | 日本海北中部 |
|-------|---|-------|--------|
| 担当機関名 | 水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター | 協力機関名 |        |

## 1. 調査の概要

青森県～石川県（青森県は主要21港、石川県は主要10港）におけるモロトゲアカエビの各県調べの月別漁業種類別水揚量\*1を集計し、近年の漁獲状況を把握した。\*1 青森県は日本海沿岸～陸奥湾の主要21港（そのうち、実際に水揚げされているのは2港）の集計、石川県は主要10港の集計である。各県ともに多くの地域で、他のエビ類と混在した集計値である。

## 2. 漁業の概要

日本海北中部（青森県～石川県）における2021年のモロトゲアカエビの漁獲量は11トンであった。青森県、山形県、新潟県、富山県、石川県は1～3トンで、秋田県は0.1トンであった（図1、表1）。いずれの県も他のエビ類と混在した集計値であり、厳密には本種の漁獲量はより少ないと推察される。

日本海北部における各県の2021年の月別漁業種類別漁獲量を図2に示した。日本海北部における主要な漁業種類は、青森県ではかご、山形県では底びき網、新潟県ではかごと底びき網、富山県ではかご、底びき網、刺網であった。日本海北部全体では、底びき網の禁漁期中でもかごなどでの漁獲があり、周年、どこかで漁獲されていた。

## 3. 生物学的特性

(1) 分布・回遊：北海道～福井県およびサハリン・韓国東岸に分布する（三宅 1983）。伊東（1978）は、日本海側の調査船調査に基づき、隠岐諸島西方にも分布を確認し、本州日本海沿岸全域に広く分布していると推察している。水深 180～530 m の泥・泥砂・砂底に生息する（三宅 1983）。2022 年 7 月に実施された日本海北部底魚資源調査では秋田県～新潟県沿岸の水深 287～450 m で採集され、富山湾のかご調査では 180～470 m で（土井 1989）、2022 年 6 月に実施された日本海ズワイガニ等資源調査（以下、トロール調査）では石川県沿岸の 220～419 m で採集された。トロール調査では福井県～島根県沖でも少量ではあるが採集されている。また島根県の陸棚斜面域では石見海域でやや多いものの隠岐周辺では極めて少ない（石田・由木 2002）。

- (2) 年齢・成長：ふ化後満1年で頭胸甲長17 mm前後、2年後には22 mm前後、3年後には27 mm前後、4年後には31 mm前後に達する（伊東 1978）。また、3歳の後期から4歳に至る時期に雄から雌に性転換を行うと推定された（伊東 1978）。
- (3) 成熟・産卵：卵巣重量の季節変化およびふ化期の発眼卵を有する個体の出現率の季節変化から、産卵期は11月～翌年4月とされ、抱卵期間はほぼ12ヶ月と推定された（伊東 1978）。
- (4) 被捕食関係：餌生物の詳細は不明である。本種と同様の水深に分布するマダラなどに捕食される（藤原 未発表）。

#### 4. 資源状態

資源調査で採集されているものの、採集数は少なく、データの精査が必要であり、日本海北中部における資源量指標値は得られてない。漁獲量は、日本海北部全体で10トン前後だが、他のエビ類が多分に含まれており、データの精査が不十分であり、現時点では動向把握は難しい状況である。

#### 5. 資源回復などに関するコメント

本報では、漁獲量集計が存在した日本海北中部を対象としたものの、調査船調査の採集状況に基づけば日本海海域においては西部でも採集されており、漁獲状況の把握が不可欠である。漁業関係者の間では、キジエビ、シマエビなどと呼ばれ、他のエビ類と異なることは認識されていることが多く、標本船によるデータ蓄積が有効である。また、水産資源研究所が実施している桁網やトロールによる資源調査では採集数は少ないが、かご調査では多く採集されることもある。今後、海底および近底層での行動生態に関する調査研究とともに、分布密度を的確に把握する手法の検討が重要である。

#### 6. 引用文献

- 土井捷三郎 (1989) 富山県の試験かご漁獲物からみたエビ類の分布水深について. 富山水試研報, **1**, 51-63
- 石田健次・由木雄一 (2002) 沖合エビ資源調査 (第2 県土水産水産資源調査). 島根県水産試験場平成13年度 (2001) 事業報告, 15.
- 伊東 弘 (1978) モロトゲアカエビの分布と生活史. 日水研報, **29**, 147-157.
- 三宅貞祥 (1983) 1. モロトゲアカエビ. タラバエビ科, 原色日本大型甲殻類図鑑 (II), 保育社, 大阪, 65.

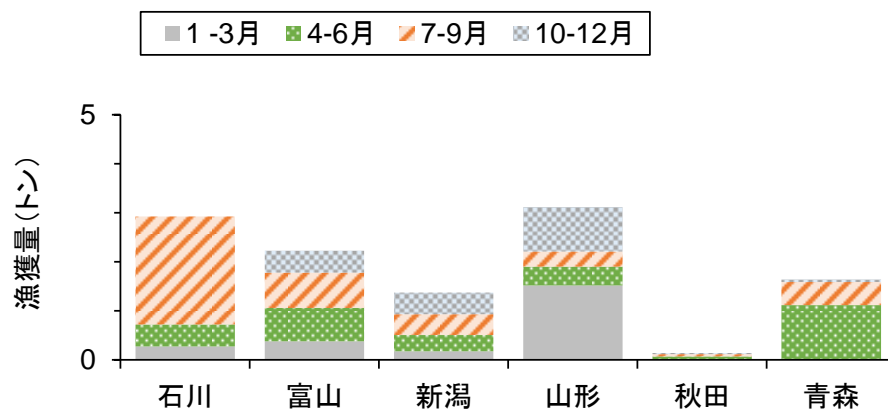


図1. 日本海北中部の県ごとのモロトゲアカエビの四半期別漁獲量（2021年）  
 値は、2022年に調査を実施した県調べの値である。他のエビ類が混在している集計値の可能性はある。

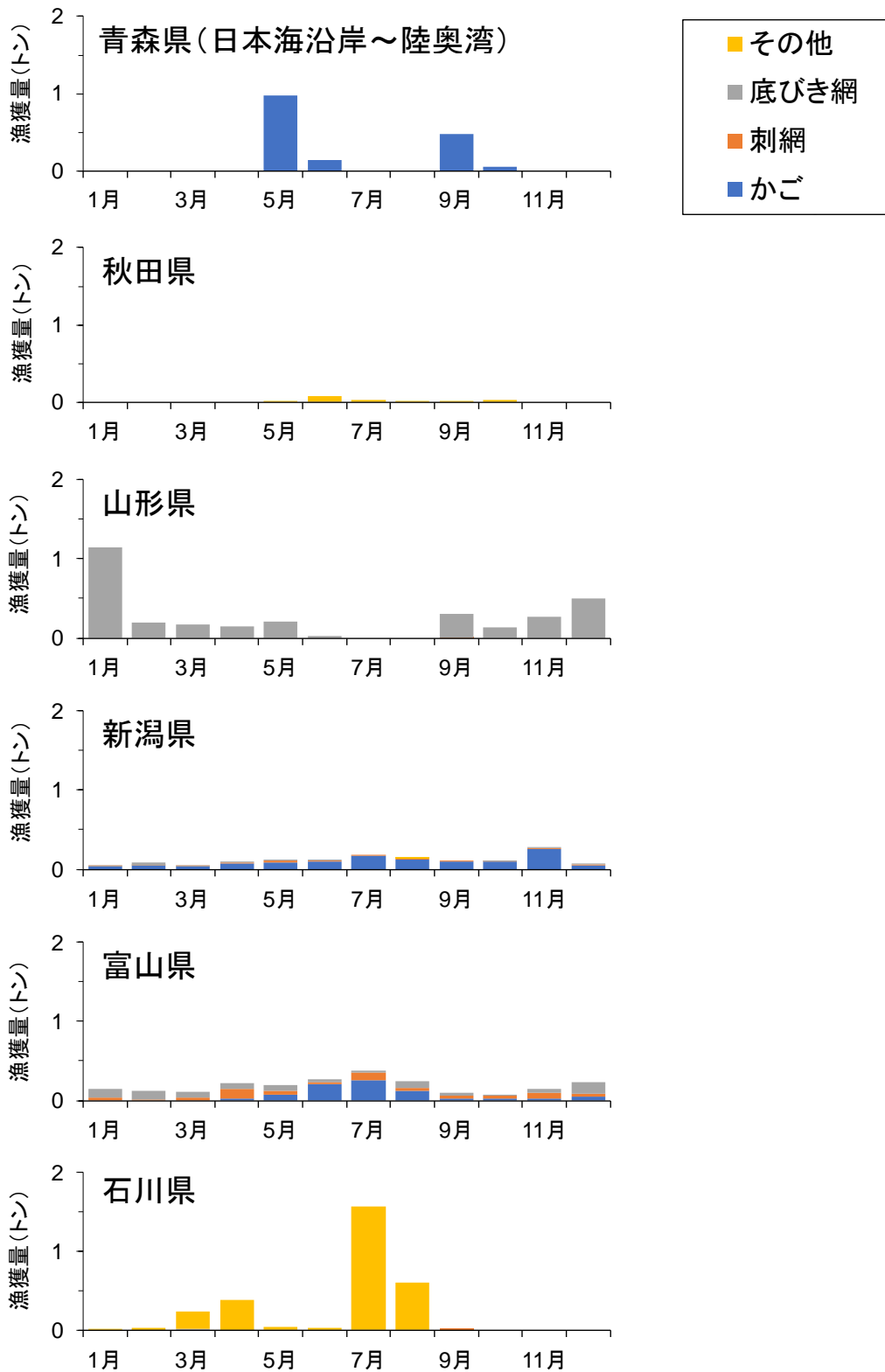


図2. 日本海北中部の各県におけるモロトゲアカエビの月別漁業種類別の漁獲量(2021年) 値は、2022年に調査を実施した県調べの値である。他のエビ類が混在している集計値の可能性はある。底びき網の値は、沖合底びき網と小型底びき網を含む。

表 1. 日本海北中部の各県におけるモロトゲアカエビの月別漁獲量 (2021 年) (kg)

|     | 青森県   | 秋田県 | 山形県   | 新潟県   | 富山県   | 石川県   |
|-----|-------|-----|-------|-------|-------|-------|
| 1月  | 0     |     | 1,149 | 45    | 143   | 6     |
| 2月  | 0     |     | 200   | 84    | 124   | 31    |
| 3月  | 0     |     | 170   | 48    | 111   | 236   |
| 4月  | 0     |     | 149   | 99    | 225   | 384   |
| 5月  | 981   | 0   | 207   | 110   | 190   | 42    |
| 6月  | 136   | 71  | 25    | 123   | 265   | 26    |
| 7月  | 0     | 22  |       | 184   | 381   | 1,569 |
| 8月  | 0     | 12  |       | 132   | 239   | 607   |
| 9月  | 472   | 11  | 309   | 108   | 99    | 20    |
| 10月 | 53    | 25  | 137   | 101   | 64    | 0     |
| 11月 | 0     |     | 270   | 273   | 150   | 0     |
| 12月 | 0     |     | 496   | 67    | 234   | 0     |
| 年計  | 1,641 | 141 | 3,113 | 1,375 | 2,225 | 2,922 |

2022 年に調査を実施した県調べの値を示した。また、他のエビ類が混在している集計値の可能性もある。なお、鳥取県における年間漁獲量は 256 kg、山口県（日本海側）における年間漁獲量は 697 kg である。